

# 2026年度予算を編成

※金額は概数

問合せ 財政室 TEL222-3288 FAX222-3283

昨年市で策定した、2050年の未来を見据えたまちの基軸・羅針盤となる「京都基本構想」。この度、同構想が描くまちの実現に向け、「新京都戦略」の改定を行うとともに、スピード感を持って戦略に掲げる政策を進めるための予算を編成しました。

## 新京都戦略を改定します

「市民生活第一の徹底」を基本姿勢に、今回の改定で重視したのは「京都の本質的な価値・魅力を未来に継承、さらに高める」視点。計画期間の先も見据えて政策などを磨き上げ、市民生活の豊かさにつなげていきます。

### 改定の主なポイント

#### 1 「夢中」がつかなく、学び合いのコミュニティ「京都学藝祭構想」

人のつながりの希薄化や本物（ほんまもん）の技の継承危機などに対し、幅広いテーマの学びのプログラムを展開し、次代の担い手の育成やコミュニティ活性化につなげます。

#### 2 京都の本源的な課題への取り組み

さまざまな分野の担い手不足、くらしと観光の調和、伝統的な町並みや地味のある変化、自然の危機など本源的な課題に対応し、早期に着手、中期、長期の視点で取り組みます。

#### 3 「広い意味での市民」との協働

通勤や通学、観光など、京都のまちとさまざまな形で関わる「広い意味での市民」ともゆるやかにつながり、共にまちづくりを進めます。

#### 4 しごとや仕方の改革のさらなる推進

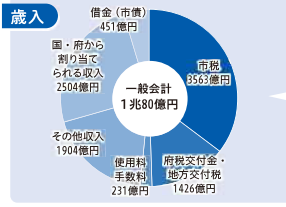
職員が担当業務を離れて、経験や知見、特技を生かせる仕組みの充実や組織風土醸成などを推進します。

新京都戦略改定の詳細はこちら ▶  具体的な取り組みは予算内容をご確認ください！

問合せ 政策企画調整担当 TEL222-3035 FAX213-1066

## 予算概要

予算内訳	過去最大
全会計	1兆9715億円
一般会計	1兆80億円
特別会計 (国民健康保険や介護保険他)	6929億円
公営企業会計 (市バス・地下鉄・上下水道)	2707億円



## 今回の予算で強化する事業の3つのポイント

### ポイント1 「夢中」がつかなく、学び合いのコミュニティ「京都学藝祭構想」の推進

子どもたちが職人の技に触れる機会の充実等による「人とのつながり」、区役所や学校等身近な地域での学び合いの「場の創出」、地域のさまざまな人をつなぐ結節点である区Hubによる伴走支援の強化など「コーディネート機能」に関する予算を強化。



### ポイント2 「暮らしやすいまち、魅力と活力あるまちの創出」に向けた課題解決の推進

- 包摂性が高く誰もが生き生きと活躍できる環境づくり**
    - 従来のがん検診の取り組みなどに加え、働き盛り世代の健康づくりに関する取り組みの充実 **7億4000万円**
    - すべてのケアラーやその家族に寄り添う包括的な相談窓口の設置や普及啓発の実施 **2800万円**
    - 加齢性難聴の方の補聴器購入支援 **2800万円**
  - 若者・子育て世代の定住・移住促進**
    - 京都安心すまい応援金の延長及び支援額の加算 **6億4700万円**
    - 私立幼稚園における第2子以降2歳児の保育料無償化 **5900万円**
- この2つの取り組みについては、8・9面でも詳しく紹介！



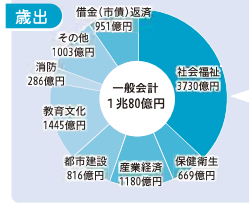
### 用語解説

**新京都戦略**  
市民生活第一を徹底し、2027年度までに実施する政策など、さまざまな取り組みを分野横断で取りまとめたもの。

**京都学藝祭構想**  
文化・産業・スポーツなど幅広い分野の担い手、地域の匠、語り部をはじめ地域の方々が育んできた多彩な価値や魅力に幅広い世代が触れ、学ぶ機会と人のつながりを創出していく取り組み。

### 主な要点

- 市税収入は宿泊税の見直しや、個人市民税・固定資産税などの増加により、5年連続で過去最高を更新の見込み。
- 社会福祉費の増大や、小学校給食の無償化などにより、国・府から割り当てられる収入が増加。



### 主な要点

- 全体の約4割を占めている高齢者福祉や児童福祉などの「社会福祉費」が増加。

### ポイント3

## 本質的な価値・魅力の継承、発展につなげる「観光」の推進

ここで紹介する取り組みは、今年3月に見直した宿泊税を活用するなど、大幅に充実したものです。

#### 宿泊税の主な使途

- 観光を通じた京都の魅力の継承・発展 **22億円**  
(うち宿泊施設の災害への備えなどに対する積み立て **5億円**)
- 文化の力を活かした価値創造 **19億円**  
(うち持続可能な形の文化財の保存などに対する積み立て **10億円**)
- 品格ある景観創造 **18億円**  
(うち京町家の再生や一時保有などに対する積み立て **5億円**)
- 観光課題対策の着実な実施 **35億円**  
(うち交通混雑対策などに対する積み立て **10億円**)
- 市民・観光客双方の利便性向上や安心安全につながる都市基盤整備 **35億円**
- 宿泊事業者への徴収事務補助金など **4億円**

合計 **132億円**

#### ①～③の取り組みはこちら

### 京都に愛着を持つ方(京都ファン)や関係団体との連携などによる京都の魅力の維持・継承

- 京町家の保全・継承に向け、改修や維持管理などの経済的負担に対する支援や、景観・まちづくりセンターの機能・体制の強化 **4億6200万円**
- 将来の京都ファンとなる修学旅行生の積極的な誘致に向けた取り組みの強化 **2億200万円**
- 文化財の適切な修理の周期に関する検討に加え、文化財への補助制度の充実 **2億円**

#### ④の取り組みはこちら

### 地域・暮らしと調和・両立した観光の実現

- 全国初となる市バスなどの市民優先価格の2027年度導入に向けた取り組みの実施 **2億7100万円**
- 観光マナーの周知・啓発の充実や、祇園・伏見稲荷大社における啓発員の増員 **8100万円**

この他、市民の皆さまの利便性向上や地域の活性化、交通課題の解決につながる京都にふさわしい交通施策の検討をしていきます！

## これからの財政状況の見通し

市税収入は増加傾向にあります。高齢化等により社会福祉費などの経費も増加する見込みです。そのため、京都市で独自に使える財源は、これからもほぼ横ばいの状況で推移していくことが見込まれます。

新たな政策を進めていくことや物価高を考慮すると、引き続き油断ならない状況です。

2026年度予算については、HPでより詳しく紹介しています。ぜひご覧ください。

## 市の財政を詳しく知りたい方へ

職員が皆さまのもとにお伺いし、市政についてご説明する「京都市政出前トーク」では、財政に関するテーマもご用意しています。HPで詳細を確認のうえ、ご活用ください。

